

# ヒラメの標識放流について

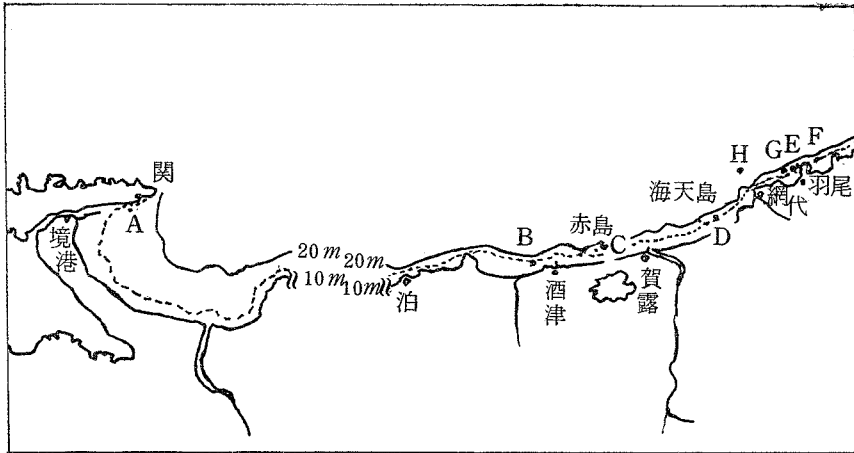
西 田 輝 己

ヒラメの標識放流をおこないヒラメの迴遊生態をしらべた。

## 調 査 方 法

試験船第2鳥取丸と民間営業船の備船による小型底曳網により採集したヒラメを、S47年度はそれぞれの船上で活魚を選別し、その脊ビレ基部へタックガンによる標識付けをおこなった後速やかに放流した。S48年度は採捕した魚体をポリバケツにて充分な送気とアイベツ薬浴をおこないながら場内の池へもち帰り1~4ヶ月飼育した個体を当才魚には極小ピン、それ以外の魚体には前年度と同方法にて放流し再捕による迴遊生態をみることにした。

なお、放流位置は図1のA~F 47年度、G~H 48年度であり、放流期日、尾数は47年度を表1に示し、48年度は、当才魚は9月14日G点に208尾平均体長13.4cm、当才以外とタイは9月13日H点に各143尾平均体長33.4cm、73尾平均体長16.4cmであった。



50万分の1

図1 放流位置図

表1 S47年度ヒラメ標識放流表

期日、昼夜	放流地点	当才魚放流数	当才魚平均体長	2才魚放流数	2才魚平均体長	イシガレイ放流 メイタガレイ数	イシガレイ平均 メイタガレイ体長
6.15 昼	D	117尾	8.7 cm	8尾	27.9 cm		
6.19 夜	D	398	8.9	11	27.7		
6.20 昼	D	255	8.8	4	27.0	メイタ 1尾	7 cm
6.28 昼	D	231	8.8	6	27.1	イシ メイタ 3 13	10.4 11.3
7. 3 夜	D	235	8.9	19	30.6	イシ メイタ 6 13	10.3 11.3
7. 3 夜	C			1	30	イシ メイタ 1 16	11 11.0
7. 3 夜	B	183	8.9	8	29.0	イシ メイタ 2 1	20.0 9
7.31 夜	D	494	9.7	11	30.3	イシ メイタ 25 12	10.6 11.2
8.31 夜	D	118	9.6	2	36.0	イシ 1	12
8.31 夜	F	33	12.8	3	31.0	メイタ 25	10.9
8.31 夜	E	6	11.8			メイタ 18	11.0
9. 4 夜	F	124	13.3	25	23.2	メイタ 135	11.7
9. 4 夜	E	60	13.2	4	32.0	メイタ 73	11.9
9.11-12 夜	A	68	16.1	68	22.9	イシ メイタ 9 9	17 11.6
計		2,322		170		イシ メイタ 40 304	

## 結 果

S47年度はヒラメ2,492尾を放流したにもかかわらず砂丘沖にて同地域で放流したヒラメ2才魚が6~28日経過して水深4~27mの地点で3尾、当才魚が水深10mで10日経過で2尾再捕されたにすぎない。

S48年度は前年度が低再捕のため前記「ヒラメ採集および飼育によるヘイ死について」の結果を考慮して室内池にて飼育し、活力の充分な魚体のみ放流したが現在まで再捕は泊沖水深10m地点移動距離31kmの2才魚1尾のみであった。

2年間放流をおこなったが極めて再捕が少い、この原因は不明である。